

## 1. 2014年度報告

本校はWaseda Vision 150で提示した将来計画の前倒しを図り、創立40周年（2022年）に向けたロードマップを作成した。①全国・世界型 ②多様性 ③男女共同参画の3つを最優先課題と捉え、本校の特長の一つである、生徒の多様性を維持しながら、ジェンダーバランスを見直し、男女を問わず優秀な生徒を国内外から確保する仕組み作りの策定段階に入った。

### （1）教学関係の実践

#### ①大久保山学

地域の特性、特に大久保山（本庄キャンパス）の環境を活用した教育の推進として、大久保山学（仮称）の具体的策定に入り、2017年度から大久保山学をカリキュラム中の「総合的な学習の時間」に導入することを決定した。各教科の垣根横断型の学際的且つ総合的な視点を持った学習の取り組みであり、断片的な知識の集積ではなく、総合的な理解力や判断力を養成する格好の学習教育プログラムとなることが期待されている。「森に想い土に親しむ」教育の実践となるよう、2016年の秋までに科目と内容を確定する。

#### ②稲作プロジェクト

隣接する美里町の協力のもと、水田での農作業を行い、生徒に米作りの苦勞を体験させ、地元農家と語り合う中で、環境と食に対する意識を高めることができた。

#### ③どんぐりプロジェクト

昨年度に続き、2015年3月20日（金）から22日（日）に、WAVOC主催の気仙沼ボランティアツアーに参加した。学院生20名が大学院生や学部生と共に、どんぐりの苗木植樹地や防潮堤の見学など現地との交流を行った。震災後4年が経過した中、今後の復興について様々な側面から考える機会となった。

### （2）教育課程改革

#### ①文理コース制度の導入

附属校として高大一貫教育の充実および教育の質の一層の向上をはかるため、抜本的な「教育課程改革」に取り組んだ。学部からの「基礎学力充実」の要請を踏まえながら、知識偏重に偏らず主体性や意欲、思考力や表現力を伸ばさせグローバル社会に対応できるあらたな教育的資質を涵養するためにカリキュラム改革を行い、2015年度入学者より2年次からの文理コース制度を導入することになった。

#### ②シラバスの作成

各教科・科目の授業概要や到達目標、教材や授業計画を年度の最初にとりまとめて CourseN@vi 上に掲載し情報の公開を促進した。

### （3）スーパーグローバルハイスクール（SGH）校に採択決定

開校以来早稲田大学および社会の中核的存在となる人材の育成を図るべく教育に邁進してきた結果の一つとして、文部科学省の2015年度スーパーグローバルハイスクール(SGH)校に採択決定となった。2015年度は全国190校から応募があり56校が採択された。国際的に活躍できるグローバルリーダー育成を図ることを目的に、既存の中国・韓国・台湾への修学旅行や多彩な交流プログラムへの参加だけでなく、国際共生のためのパートナーシップ構築においてアジアにおける中心的役割を果たすことができる人材育成プログラムの開発に取り組む所存である。

## 2. 2015年度計画

2012年に創立30周年を迎えたが、すでに40周年(2022年)を視野に、本庄高等学院第2ステージへのロードマップを作成し、Waseda Vision150で提示した将来構想を前倒しすべく歩みだした。30余年の教育成果を踏まえながらも、2015年度SGH指定校としての活動を中心に更なる革新を遂げ、附属高校としての責務を果たすとともに、高校教育界にあって確固たる地位を築くことを目標とする。以下にその概要を示す。

○早稲田大学のコアとなる人材の育成を目指すことはもとより、国際共生のためのパートナーシップ構築力を育成する独自のプログラムを通してグローバルリーダーとして世界の平和や人類の幸福実現に貢献できる人材を育成する。

- ・各コミュニティー固有の課題解決や発展のために複合的な視点から企画を創造し、国内外の仲間と望ましい人間関係(パートナーシップ)を構築しながら協働で課題に取り組む力をつける。
- ・幅広く深い知識教養に裏打ちされた複眼的な視点、および優れたコミュニケーション力を養成する。
- ・海外への修学旅行をベースにした中国・韓国・台湾の協定締結校との交流、シンガポールやシカゴなど各国の高校との交流を深化発展させ、学術・教育・文化などの国際協働プロジェクトに取り組む。
- ・10年以上にわたるSSHで得られた成果と知見を、交流プロジェクトの企画運営に活用する。

○本学院がアジアの交流校のハブおよび地域のグローバル化の拠点となること

- ・現在展開しているプロジェクトを深化させ、更に授業内での知力を涵養する取り組みの応用実践を地域と連携して遂行する。
- ・プロジェクトの成果物はデジタルコンテンツにして、地域の諸学校に還元する。

○高大連携・接続の観点から新たな留学制度や高大連携のカリキュラム、思考力や判断力、意欲、主体性を持って他と協働できる真の学力を兼ね備えた生徒を送れるような、新しい学部への推薦制度について検討する。

- ・基礎学力の充実、知的好奇心の伸長を図るとともに探求心を養い、根気強く学問に立ち向かえる心身を育てる。
- ・学部のみならず将来様々な分野で要請される確かな基礎的学力を涵養する。
- ・基礎力をつけ、思考力、判断力、表現力を一層伸長する新カリキュラムを実行する。

○大久保山学等の教科横断型の授業や本庄キャンパスの環境を活かした教育の展開をはかる。

- ・里山である大久保山の緑豊かな自然環境の中で、生徒たちに、自然と共に生き、自然の知恵に学ぶという本校独自の多様な教育プログラムを経験させる。
- ・国際的な課題の解決にはまずは各地域の文化・社会を詳細に学び地域固有のニーズに沿った対応をとることが求められる。本校独自の教科横断型プロジェクトにより学際的な知見を習得させ、実際的に知識や学問が活用されることを体験させる。